

## 取扱説明書

### エンジンカッター

EC7500S

EC7600S

**Soft**スタート

#### ⚠ 注意

ご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。又、内容をよく理解したうえでご使用ください。不適切な操作や保守は、重大な事故につながるおそれがあります。なお、本書はいつでも利用できるように、大切に保管してください。

目次	頁
1. 安全にご使用いただくために	1
1-1 ご使用前に	2
1-2 キックバック	5
1-3 給油	5
1-4 始動	6
1-5 作業	7
1-6 停止	8
1-7 点検・整備	8
1-8 移動・保管	9
2. 仕様	10
3. 各部名称	11
4. 組立の手順	13
4-1 外観と付属部品のチェック	13
4-2 刃物の取り付け	13
5. エンジンの始動と停止	13
5-1 燃料の給油	13
5-2 エンジンの始動	15
5-3 始動困難なとき	17
5-4 停止	18
6. 切断作業	18
6-1 ホイルガードの角度調整	18
6-2 切断作業	19
6-3 効率のよい使い方	19
7. 点検・整備	20
7-1 エアクリーナーの清掃	20
7-2 キャブレターの調整	22
7-3 スパークプラグの点検	24
7-4 シリンダーフィンの清掃	25
7-5 ベルトの点検	25
7-6 ベルトの張りの調整	25
7-7 ベルトの交換	26
7-8 といしの点検	26
7-9 ダイヤモンドブレードの点検	27
7-10 刃物の交換	27
7-11 ダイヤモンドブレードの目立て	28
7-12 燃料フィルターの点検	28
7-13 クラッチ部ベアリングへのグリス注入	29
7-14 防振ゴム類の点検	29
7-15 その他	29
8. 長期保管	30
9. 修理を依頼する前に	31
10. 主な消耗品	32
11. 振動障害の予防	33

新ダイワエンジンカッターをご購入いただきまことにありがとうございます。  
この取扱説明書の「安全にご使用いただくために」を十分理解し、安全に使用してください。この取扱説明書でわからない事がありましたらお求めの販売店かお近くの弊社営業所におたずねください。

本機は、高速回転する刃物（ダイヤモンドブレード、といし）でコンクリート、  
鋳鉄管、鋼材などを切断する機械です。事故や災害を予防するために安全予防を  
常に心がけてください。不注意または不適切な使用は重大な事故の原因となります。

#### シグナル用語の説明

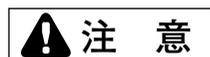
この取扱説明書は次のシグナル用語を使用しています。



取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。



取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。



取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。

〈注記〉本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項

## 1. 安全にご使用いただくために

### 安全標識の説明



この取扱説明書をよくお読みください。また内容をよく理解したうえでご使用ください。



本機を運転中は常に耳栓、防じんマスク、保護めがね、保護帽を着用してください。



キックバック注意。刃物の上半分で切断しないでください。



飛散物に注意してください。

## 1-1 ご使用前に

### 危険

- 取扱説明書を読んでいない人や年少者（子供）に本機を使用させないでください。
- 作業する場合、本機を使用する周辺に他の人、子供、動物がいないことを確認してください。誰かが近づいてきた場合は、エンジンを停止させてください。
- 回転している刃物に触れないでください。
- 本機の使用は換気が良好な場所で行ってください。閉鎖された場所（室内、倉庫、トンネルなど）では、本機を運転しないでください。エンジンの排気により、ガス中毒をおこしたり、酸欠状態になり、死亡するおそれがあります。

### 警告

- 排気の方角には人がいない事を確認して運転してください。
- 排気ガスを吸わないでください。
- 本機の改造は行わないでください。またガード類やマフラーを取り外して運転しないでください。

●本機は、一人用の機械です。一人で取り扱ってください。

●疲労、病気、酒気帯びの場合、または医薬品服用中の場合は作業を行わないでください。また作業中に体調が悪くなった場合にはすぐエンジンを止め、作業を中止してください。



●指に不快感、赤み、腫れがあり、白くなったり感覚がなくなったことのある人は、製品を使用する前に医師に相談してください。

指にレイノー現象と呼ばれる症状が現れることがあります。

●裾のひらひらした服、ネクタイ、アクセサリー類、ショートパンツ、サンダルなどを着用しないでください。また裸足で作業をしないでください。頭髮は肩から下に垂れないように覆ってください。

●靴は底に滑り止めのついた安全靴を使用してください。

●雨の日は、滑りやすいので作業をさけてください。

●弊社が推奨している刃物以外は使用しないでください。

●安全な作業場所及び安定した足場を確保して作業してください。

●作業前に作業場所をきれいにしてください。石、金属片、ガラスは飛散して危険です。

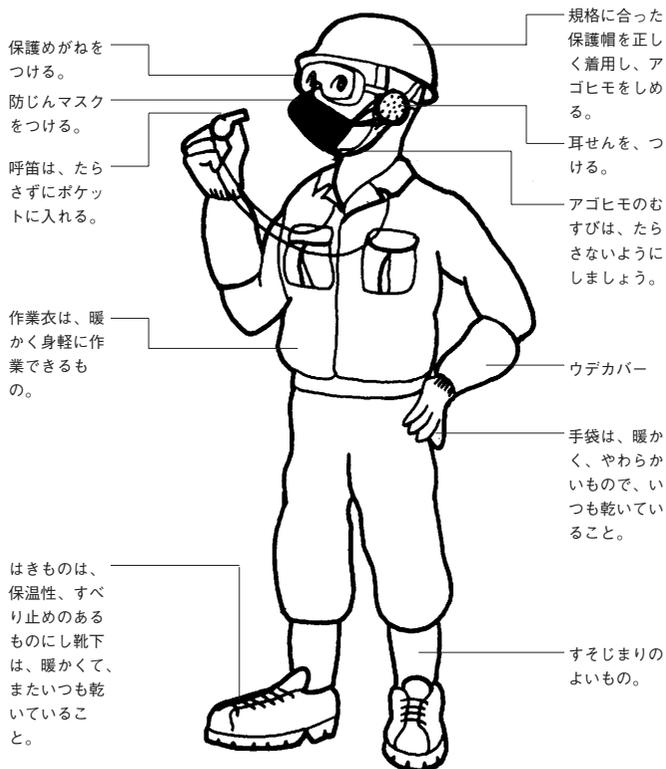
●飛散物やほこりから目を守るため、付属の保護めがね、または同等品を着用してください。

●耳栓をつけてください。聴覚障害をおこすおそれがあります。

●規格にあった保護帽（ヘルメット）を正しく着用してください。落下物によりけがをするおそれがあります。

●厚生労働省の通達は以下のとおりです。

- ・ 1日の操作時間：「周波数補正振動加速度実行値の3軸合成値」より算出してください。33ページの「振動障害の予防」参照  
（最大でも2時間以内）
- ・ 1回の連続操作時間：30分以内
- ・ 1回の連続操作後の休止時間：5分以上



- 正しく点検されたといしやダイヤモンドブレードを使用してください。振動が低下します。
- 寒冷の時には、長時間の作業はしないでください。
- 厚手で滑り止めの付いた防振性のある手袋を着用して手を保護してください。
- 規格にあった防じんマスクをつけてください。呼吸器障害をおこすおそれがあります。
- ガソリンを使用しますので、本機のそばで喫煙やたき火はしないでください。
- 作業前に燃料漏れがないか確認してください。
- マフラーや、マフラーから出る排気ガスは非常に高温になりますので、燃えやすい物を近づけないでください。

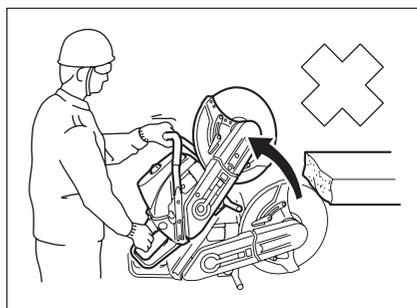
## **!** 注 意

- 作業前にネジの緩み、脱落と刃物の消耗を点検し、異常のないことを確認してください。
- ベルトの張りの調整が適切に行われ、適正な張りぐあいを保っており、プーリーカバー、クラッチカバーがしっかり締め付けてあることを確認してください。
- 作業に当たってはその作業地域の規則、取り決めにしたがってください。
- 事業者様へ  
この製品に使用する砥石の取替え、及び試運転は、法・規制で定める特別教育を受けた人に行わせてください。(労働安全衛生規則・第36条の1)

## 1-2 キックバック

### **!** 危 険

刃物の上半分で切断作業を行うと切断材への反発力が発生し、刃物の先端が回転の反動ではねあがり、たいへん危険です。この反動をキックバックと言います。この場合、運転者は本機をコントロールできなくなり、重大な事故につながる場合があります。刃物の上側を使って切断するとキックバックを起こしますので、必ず刃物の下側で切断してください。



## 1-3 給油

### **!** 警 告

- 無鉛ガソリンと2サイクル専用オイルの混合、及び給油は屋外の火気のない場所でおこなってください。給油はエンジンを停止し、燃料が吹き出す事があるので、エンジンが冷えた後にゆっくりと燃料キャップを外して行ってください。

- こぼれた燃料は本機から拭き取ってください。引火するおそれがあります。
- 燃料の持ち運びや保管など、取扱いには十分注意してください。

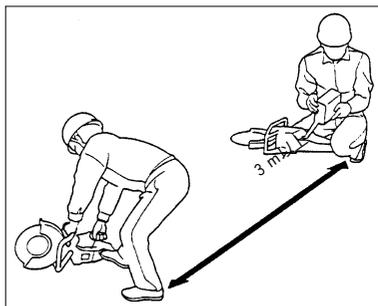
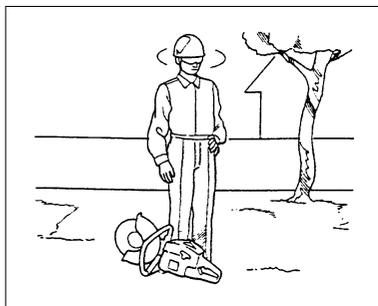
## 1-4 始動

### 危険

- エンジンを始動する場合、刃物が地面や他の物に接していないことを確認してください。エンジンを始動するとすぐに刃物が回ります。

### 警告

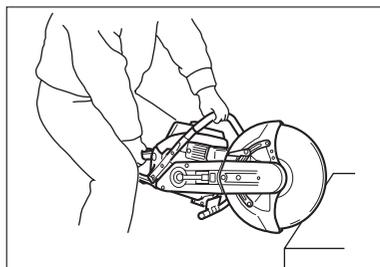
- エンジンの始動は取扱説明書に従い、安定のよい場所で行ってください。始動時は周囲の安全を確認し、一人（補助者なし）で行ってください。
- エンジンがアイドリング時、刃物が回転していないことを確認してください。アイドリング時、刃物が回転すると危険です。回転する場合はアイドリング調整をして回転数を下げてください。
- エンジンの始動は、給油場所から3 m以上はなれた場所で行ってください。



## 1-5 作業

### 警告

- 本機は胸より下の位置で使用してください。本機が肩より高くなるような姿勢での作業はたいへん危険です。縦切りは水平から斜め下側、横切りはリコイルスターターが上になる状態で行ってください。



- 本機を操作するときは必ず両手で、フロントハンドルおよびリアハンドルをしっかり握ってください。その他の部分は持たないでください。特にホイールガードの内側に手を差し込むことのないように注意してください。
- 曲線切り、コジリ、刃物側面の使用は絶対に行わないでください。
- しっかりした足場の上で安定した姿勢で作業を行ってください。
- 数人で作業するときは、他の人に危険のおよばないよう10m以上間隔をあけて作業してください。
- 本機を使用している人に近づくときはお互いに合図を行い、エンジンが停止してから近づいてください。
- 作業中に本機を落としたり、壁にぶついたり、何か異物に当たったりしたときは、エンジンを停止し損傷の有無を調べてください。もし損傷があれば使用せず、速やかに修理してください。
- 燃料キャップは、緩んでいないか常に注意してください。また燃料漏れを起こさないよう常に増し締めをしてください。
- 燃料が漏れた場合は、ただちにエンジンを停止してください。
- 使用中に火花を発生することがあります、引火や爆発のおそれのある場所では使用しないでください。切断後まわりに火種がないか確認してください。

- 電線を切断しないでください。感電するおそれがあります。

## 注 意

- 運転中または運転直後に高温部（マフラー、シリンダーなど）や排気ガスに触れないでください。ヤケドをします。
- 切断直後の刃物に直接さわらないでください。ヤケドをします。
- 運転中は、高電圧部（プラグキャップ、プラグコードなど）に触れないでください。感電するおそれがあります。

## 1-6 停止

### 警 告

- エンジン停止後、あるいはスロットルを離した後も、刃物はしばらく回転し危険です。スイッチを切った時には、刃物が停止するまで両手でハンドルをしっかり握っててください。刃物の停止を確認した後に本機を地面に置いてください。

## 1-7 点検・整備

### 危 険

- 点検・整備（刃物交換、ベルト交換、清掃等）を行うときは必ずエンジンを停止し、刃物が停止していることを確認してから行ってください。

### 警 告

- ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しの良い火気のない所で行ってください。
- 部品交換を行うときは、必ずやまびこ純正部品を使用してください。他社の部品を使用すると重大な事故になる可能性があります。

- 取扱説明書に記述していない点検・整備については弊社営業所に依頼してください。

## 注 意

- 点検・整備はエンジンが冷えてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

## 1-8 移動・保管

### 警 告

- 移動時や保管時にはエンジンを停止してください。刃物が回転してけがをするおそれがあります。

### 注 意

- 保管の際は、燃料漏れ、破損、事故等を防止するために本機を、転倒しないような安定した場所に、刃物をはずして置いてください。
- 年少者（子供）の手が届かない乾燥した場所に保管してください。
- 移動時はフロントハンドルを持ち、刃物を後ろ向きにしてください。
- 2～3日以上保管する場合は燃料タンクを空にしてください。

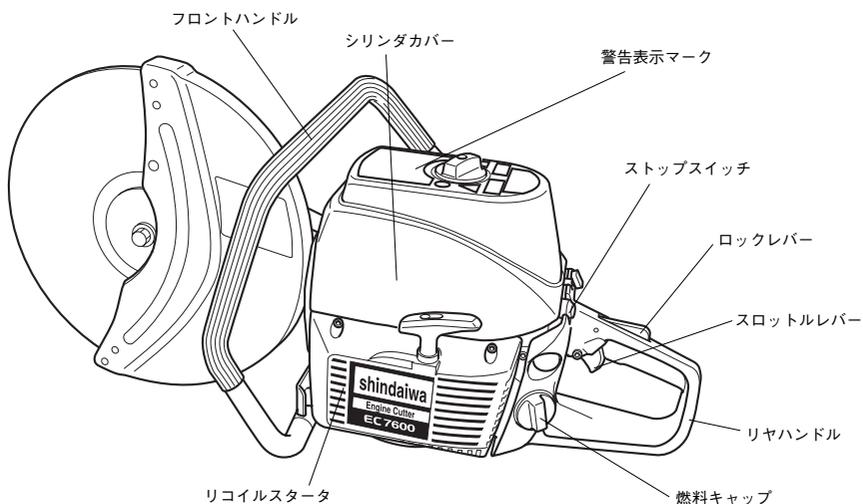
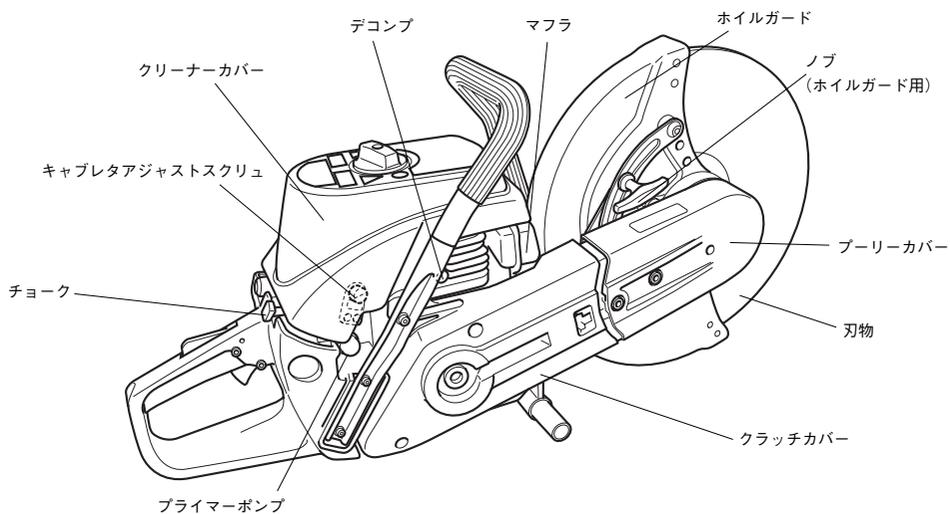
## 2. 仕様

モデル	EC7500S	EC7600S
エンジン形式	2サイクル空冷ガソリンエンジン	
排気量 ml	73.5	
内径×行程 mmxmm	51×36	
アイドル回転速度min <sup>-1</sup>	2500	
最高回転速度 min <sup>-1</sup>	10550	
点火方式	電子点火方式 (CDI, 自動進角式)	
スパークプラグ	チャンピオン、CJ6Y	
気化器	ダイヤフラム式	
燃料タンク容量 L	0.80	
燃料	混合燃料 (無鉛ガソリン: 2サイクル専用オイル=25:1) 純正混合燃料缶	
最大深度 mm	102 (*1 109)	127 (*1 129)
最高周速度m/s (m/min)	67.5 (4050)	68.5 (4100)
減速比	2.50	2.87
始動方法	リコイルスターター (防塵型)	
停止方法	アース式(プッシュスイッチ)	
動力伝達方式	自動遠心クラッチ、Vリブドベルト	
防振構造	ハンドル一体防振 (7点支持)	
安全装置	スロットルロック	
乾燥質量 (刃物を除く) kg	10.4	10.8
外形寸法 mm (長さ×幅×高さ)	740×240×375	770×240×385
使用刃物	穴径φ22・最高使用周速度,100m/s(6000m/min)	
切断といし	非金属用レジノイドといし (ブルー) ……別売品 金属用レジノイドといし (レッド) ……別売品	
外径	305mm (12インチ)	355mm (14インチ)
ダイヤモンドブレード	コンクリート用 (ピンク) ……別売品 鋳鉄管用 (オレンジ) ……別売品	
外径	320mm	360mm
周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値 (m/s <sup>2</sup> )	11.9	13.8
振動測定の準拠規格	ISO 19432 : 2006	

\*仕様は予告なく変更することがあります。

\*1 別売品のダイヤモンドブレード使用時

### 3. 各部名称



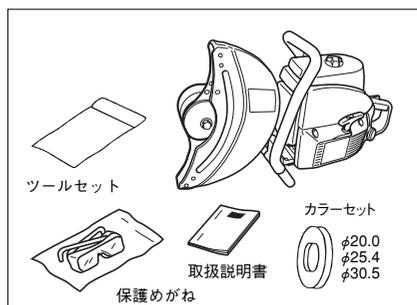
- |                          |   |
|--------------------------|---|
| 1. シリンダカバー               | マフラ、シリンダ、キャブレタをカバーします。                                    |
| 2. マフラー                  | 排気音を減少させます。   |
| 3. フロントハンドル              | 本機の前方にある左手用ハンドルです。  |
| 4. リヤハンドル                | 本機の後方にある右手用ハンドルです。  |
| 5. スロットルレバー              | エンジンのスピードをコントロールします。                                      |
| 6. ロックレバー                | スロットルレバーを作動させる前に押し下げます。                                   |
| 7. プライマーポンプ              | タンクからキャブレタに燃料を送るポンプです。                                    |
| 8. キャブレターの<br>アジャストスクリュー | アイドルリング回転数を調整します。   |
| 9. チョーク                  | 冷えているエンジンの始動時に燃料と空気の混合割合を調整し、スロットルをある程度引いて固定させ、始動性を良くします。 |
| 10. ストップスイッチ             | スイッチを押すとエンジンが停止します。                                       |
| 11. 燃料キャップ               | 燃料タンクのふたです。   |
| 12. 刃物                   | コンクリート、鋳鉄管、鋼材、などを切断する砥石またはダイヤモンドブレードです。                   |
| 13. ホイルガード               | 刃物のカバーです。   |
| 14. ノブ                   | ホイルガード固定用。  |
| 15. クリーナーカバー             | エアクリーナーをカバーしているふた。  |
| 16. プーリーカバー              | ベルト及びプーリーをカバーします。   |
| 17. クラッチカバー              | クラッチドラム、ベルトをカバーします。                                       |
| 18. リコイルスターター            | グリップを引っ張ってエンジンを始動します。                                     |
| 19. 警告表示マーク              | 警告指示事項を示します。  |
| 20. デコンプ                 | 始動時にエンジンの圧縮を抜いて、リコイルの引き力を軽減します。                           |

## 4. 組立の手順

### 4-1 外観と付属品のチェック

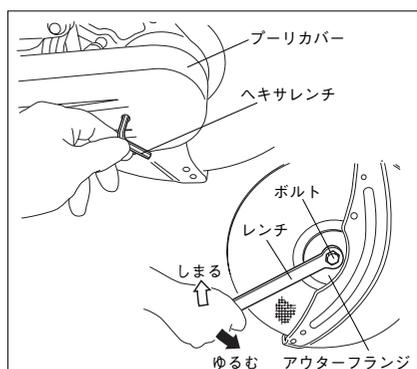
本機は工場出荷の際、厳重な検査を行っておりますが、念のために本製品の損傷やネジのゆるみなどがないか点検してください。

また、付属品の欠品がないか点検してください。もし、点検の結果、異常や欠品があった場合はただちにお求めの販売店もしくは、弊社営業所へご連絡ください。



### 4-2 刃物の取り付け

- ① 付属のヘキサレンチをプリーカバーの穴に入れてドライブシャフトを固定して下さい。
- ② 刃物はドライブシャフトのカラーにセットするようになっています。刃物の中心穴にカラーが確実にセットされていることを確認し、アウターフランジを取り付け、ボルトを締め付けてください。



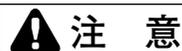
## 5. エンジンの始動と停止

### 5-1 燃料の給油



火気を近づけないでください。火災の原因となります。

## 1. 燃料



**新品時は、混合燃料の混合比を20：1で約20時間使用してください。また、燃料は必ず混合燃料を使用してください。**

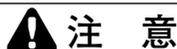
新品時20時間使用後燃料は必ず、無鉛ガソリン25に対して2サイクル専用オイル1の割合で混合した混合燃料を使用してください。

燃料の混合は容器にオイルを先に入れ、後からガソリンを加えてください。

2サイクル専用オイル

例)	ガソリン	混合比25：1
	(L)	( ml )
	1	40
	5	200
	10	400

## 2. 給油



**給油する前に燃料キャップとその周りを良く清掃してください。異物やゴミをタンク内に入れしないでください。燃料は、ゆっくりと給油してください。急いで入れると吹きこぼれるおそれがあります。**

燃料は常に新しいものを使用してください。2～3カ月以上保存したり、異物が混入した燃料を使用すると、故障の原因となります。

- ① 給油する前に燃料をよく混合してください。
- ② 燃料キャップをゆっくり外し、燃料を給油してください。温度が高いと、燃料が吹きこぼれることがあります。
- ③ 給油後は確実にキャップを締め、燃料タンクから燃料漏れのないことを確認してください。

## 5-2 エンジンの始動

### ⚠ 危険

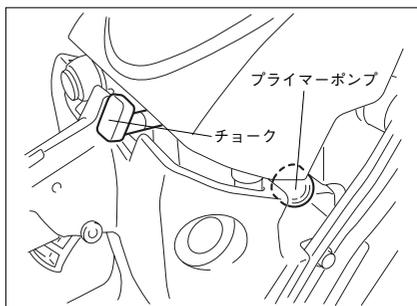
エンジンを始動する場合、刃物が地面や他の物体に接触していないことを確認してください。始動後すぐに刃物が回り危険です。

### ⚠ 注意

始動時にリコイルスターターを最後まで引かないでください。ロープの寿命が短くなります。リコイルスターターを急に離さないでください。正しく巻き込まれないことがあります。

Softスタートは軽く引けるスターターです。リコイルスターターを軽く引いてもスプリングの作用で、エンジンを簡単に始動することができます。

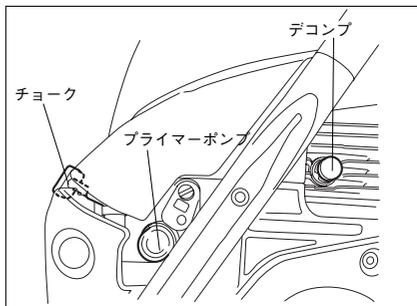
- ① アジャストスクリューの下側に付いているプライマーポンプ（透明半球形）を押し、ポンプ内に燃料が入り、泡が少なくなるまで押してください。  
（始動時）



- ② チョークを引いてください。  
チョークを引くと、始動ロックがかかります。（エンジンが冷えているとき）

#### 〈注記〉

エンジンが暖まっているときは、チョークを一度引いてから戻してください。  
スロットルロックがかかります。



- ③ デコンプを押す。

## **！** 危 険

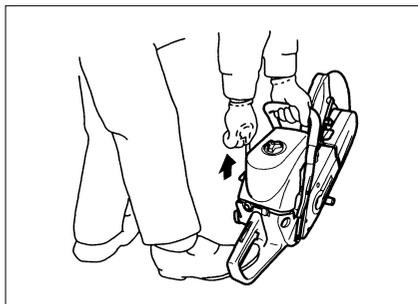
作業者以外の人を作業場所から遠ざけてください。

④ 本機を地面におき、右足でリヤハンドルをしっかりと固定します。

⑤ 左手でフロントハンドルをつかみ、右手でリコイルスターターを引きます。

⑥ リコイルスターターを数回引き、爆発音がしたらチョークをもとの位置に押し込んでください。(エンジンが冷えているとき)

⑦ 再びリコイルスターターを引いてください。エンジンが始動したらスロットルレバーを少し引いて、始動ロックをはずしてエンジンをアイドリング状態にしてください。



## **！** 警 告

**アイドリング時刃物が回転してはいけません。アイドリング時刃物が回転すると危険です。回転する場合はアイドリング調整をして回転数を下げてください。(7-2項参照)**

⑧ アイドリング運転を2～3分間行ってください。

⑨ スロットルレバーを徐々に引いてエンジンの回転を上げていくと、自動的に刃物が回転し始めます。スロットルレバーを戻すと、刃物の回転が停止し、エンジンはアイドリング状態になります。

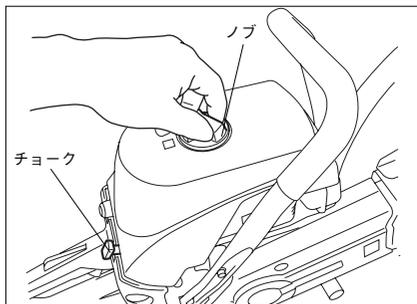
### 5-3 始動困難なとき

エンジンが暖まっている状態で始動しないときは、エンジンが冷えている場合と同じ方法で始動してみてください。それでも始動しない場合、またはエンジンが冷えた状態で始動しない場合は次の操作をおこなってください。

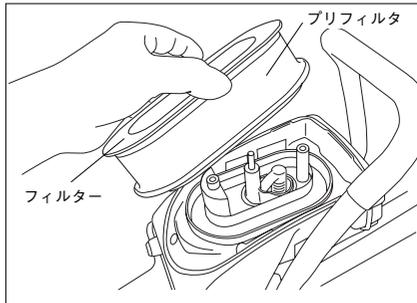


**火気を近づけないでください。火災の原因となります。**

① チョークをいっぱいに引いてください。

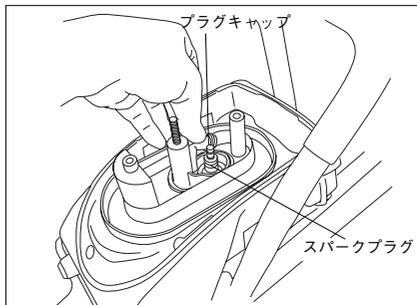


② クリーナーカバー上のノブをゆるめ、クリーナーカバーを取り外し、フィルターのスクリュ2本をゆるめ、フィルターを取り外してください。



③ プラグキャップを取り外してください。

④ スパークプラグを付属のプラグレンチでゆるめて取り外し、スパークプラグの電極部が濡れているかどうか調べてください。



⑤ スパークプラグが濡れている場合は、スパークプラグを乾燥させてください。スパークプラグを抜き取った状態でリコイルスターターを引き、数回空転させて燃料をシリンダー内から排出してください。

⑥ スパークプラグを付属のプラグレンチで確実に取り付け、プラグキャップを取り付けてください。取り外した部品を元通りに取り付けてください。

- ⑦ 5-2エンジンの始動の項に従って、チョークを一度引いて戻してから始動してください。
- ⑧ スパークプラグが濡れていない場合は、燃料タンクから燃料が届いていないので燃料フィルターやキャブレターを点検する必要があります。  
7-2、7-12の項の点検をするか弊社営業所にお問い合わせください。

## 5-4 停止

エンジンを停止させるときは、スロットルレバーを戻し2～3分間アイドリング運転をしてからストップスイッチをエンジンが停止するまで押し続けてください。

## 6. 切断作業

### 危険

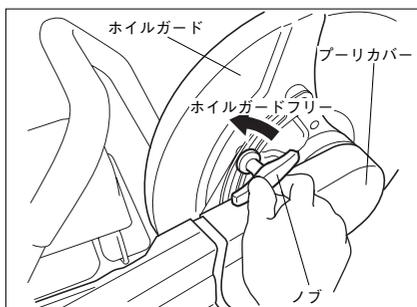
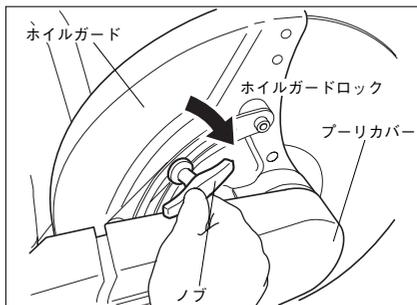
- 作業する場合、本機を使用する周辺に他の人、子供、動物がいないことを確認してください。誰か近づいてきた場合は、エンジンを停止させてください。
- 本機を使用するときは、保護目がね、防じんマスク、保護帽、耳栓、手袋及び安全靴を着用してください。

### 6-1 ホイルガードの角度調整

#### 危険

といしを使用するときは、必ずホイルガードを固定してください。固定していないと、といしが破損したときにホイルガードが動いて破片が飛びけがをすることがあります。

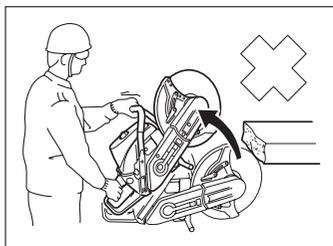
- といしを使用する場合  
 ホイルガードは、作業者に破片が飛んでこない位置に動かし、ノブを時計回りに締めこみ、ホイルガードを固定してください。
- ダイヤモンドブレードを使用する場合  
 通常はといしと同じように固定して使用しますが、ホイルガードを固定しないで使用することもできます。その場合、ノブを反時計回りにいっぱいに戻し、固定してください。  
 ホイルガードはスプリングで常に同じ位置に戻るよう設計されています。  
 (各部名称参照)



## 6-2 切断作業

### ⚠ 危険

刃物の上半分で切断作業を行うと切断材への反発力が発生し、刃物の先端が回転の反動ではねあがり、たいへん危険です。この反動をキックバックと言います。この場合、運転者は本機をコントロールできなくなり、重大な事故につながる場合があります。刃物の上側を使って切断するとキックバックを起こしますので、必ず刃物の下側で切断してください。



安全に作業ができるよう周囲をきれいにしておいてください。  
 刃物をまっすぐに当てて、低速回転で切り溝をつくってから高速にして切断してください。

## 6-3 効率のよい使い方

スロットル全開で回転数は8500~9500min<sup>-1</sup>{rpm}の範囲になるように、刃物を軽く切断材に押し当てて切断するのが最も効率のよい使い方です。  
 刃物を切断材に強く押し当てて、エンジン回転数を下げて使用するのは使用者の疲労を増し、切断性能が著しく低下します。

## 7. 点検・整備



ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しの良い火気のない所で行ってください。

点検・整備表

項目	始動前	毎週	毎月	必要な場合	備考
エアクリーナー	○				破れは交換
キャブレタ				○	
クラッチドラム		○			
スパークプラグ			○		
シリンダーフィン			○		
燃料フィルター			○		
ともし (ブレード)	○				
ベルト		○			
ネジ類	○				
燃料キャップ	○				
燃料タンク	○				
オイルガード	○				
防振ゴム類	○				

注：振動障害を防止するために防振ゴムや防振スプリングは、製品のご使用前後に摩耗、亀裂、変形がないか点検してください。  
100時間毎、または異常がある場合や、通常より振動が増えたと感じた場合には、お買い求めの販売店で点検をしてください。

### 7-1 エアクリーナーの清掃

本機のエアクリーナーシステムは、乾式プリフィルター（標準品）と湿式プリフィルター（別売品）を用意していますので、使用状況にあわせてお選びください。

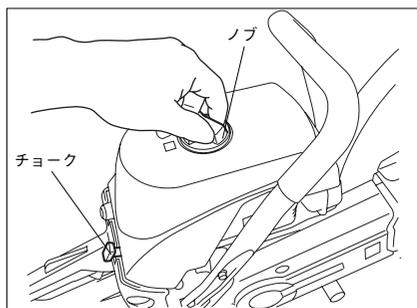
乾式プリフィルター…プリフィルター・フィルター共に清掃が必要ですが、繰り返し使用できます。

湿式プリフィルター…プリフィルターの交換だけで清掃が完了しますが、プリフィルターの再使用はできません。

エアクリーナーの汚れは本機の寿命に大きく影響します。作業を始める前には必ず点検・清掃をしてください。

## 1. 点検・清掃前準備

- ① キャブレタ内にゴミが侵入しないように、チョークを引いてください。
- ② クリーナーカバー上のノブを緩め、クリーナーカバーを取り外してください。
- ③ フィルター取り付け用スクリュ（2本）を緩め、フィルターを取り外してください。



※空気取入れ部に粉塵が落ちないように注意してください。

2. 点検:フィルター内部や、空気取り入れ部が汚れていないか確認してください。もし汚れていたらフィルターを交換してください。

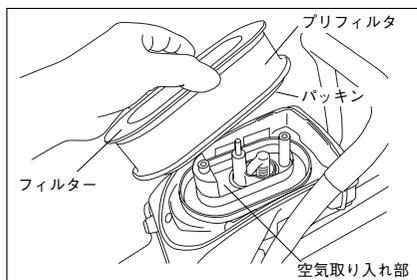
## 3. 乾式プリフィルター（標準品）装着時の清掃

### 注意

フィルターをたたきつけ破損させたり、外側からエアガンで吹きつけダストがフィルターを通過すると、エンジン内部にダストが混入し焼付き等の原因となります。

作業前には必ず清掃をしてください。

- ・点検・清掃：1日1回
- ・交換：約20時間ごと、またはフィルターの破損等によりフィルター内部にゴミやホコリが付着している場合。



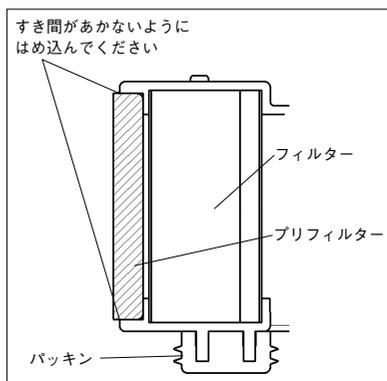
- ① エアガンを使用する場合、プリフィルターをフィルターから取り外し、必ずフィルターの内側から外側に向けてエアを吹き付け、ゴミやホコリを吹き飛ばしてください。  
エアガンがない場合は、はたいてホコリを落としてください。  
フィルターは傷つきやすいためコンクリートなどの硬いものにたたきつけないでください。
- ② フィルターのパッキンと、シリンダカバー取り付け面の汚れをきれいに取除いた後、プリフィルターをはめこみフィルターを取り付けてください。
- ③ フィルター取り付け用スクリュ（2本）を確実に締め込み、クリーナーカバーとノブを取り付けてください。

#### 4. 湿式プリフィルター（別売品）装着時の清掃…専用特殊オイル含浸品（赤色）

・点検：1日1回

湿式プリフィルターは粉塵がほとんど透過しないため、内部のフィルターは点検のみで、清掃の必要はありません。プリフィルターを新品に交換すれば再び使用できます。切断作業中にパワーが落ちたと感じたら、プリフィルターの交換をしてください。

- ① 汚れたプリフィルターをフィルターから取り外してください。  
(プリフィルターは使い捨てです)
- ② フィルターを点検し汚れている場合は、乾式フィルターの清掃手順にそって清掃してください。
- ③ 新品のプリフィルターをフィルターの溝に、すき間がないようにはめ込んでください。



すき間があると内側のフィルターにゴミやホコリが侵入し、内側のフィルターまで清掃が必要となります。

- ④ フィルターのパッキンと、シリンダカバー取り付け面の汚れをきれいに取り除いた後、フィルターを取り付けてください。
- ⑤ フィルター取り付け用スクリュー（2本）を確実に締め込み、クリーナーカバーとノブを取り付けてください。

## 7-2 キャブレターの調整

キャブレターは工場出荷時に調整していますので、調整の必要はありません。気圧、気温、燃料の違い、10時間以上の使用による状態変化などにより、調整が必要になったときにのみ行ってください。調整が難しい場合には弊社営業所にお問い合わせください。キャブレターを調整する場合は、エンジンを始動し、2～3分間の暖気運転の後、次の手順で調整してください。また、エアクリーナーが汚れている場合は清掃してから行ってください。



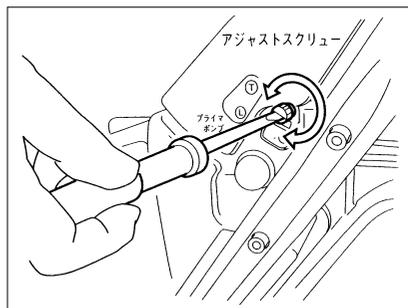
刃物の周辺に人または干渉物がないことを確認して行ってください。  
アジャストスクリューの調整時、低速調整時には刃物が回転します。

### 1. アイドリングの回転調整

アイドリング時に刃物が回らないように調整します。

またエンジンが $2300\sim 2600\text{min}^{-1}$  {rpm}で安定して回転するようにアジャストスクリューを調整してください。

時計方向に回すと回転が上がります。



### 2. 低速（L）ニードルの調整範囲

#### ⚠ 注意

- 無負荷全開運転をするとエンジン回転が高くなりすぎ、焼き付くおそれがありますので、空吹かしはしないでください。
- ニードル調整時、力いっぱい回さないでください。キャブレターボディをいため、調整できなくなります。

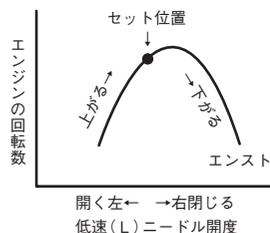
標準開度

Lニードル： $1\frac{1}{2}$

標準開度はニードルを静かに、時計方向にいっぱい回し、全閉したところからの戻し数値です。

### 3. 低速（L）ニードルの調整

- ① アイドリングの回転速度調整をした後、低速（L）ニードルを反時計方向または時計方向にゆっくり回してみて、エンジンの回転速度が上がる方向に回していきます。更にそのまま回し続けるとエンジン回転速度が低下していきます。



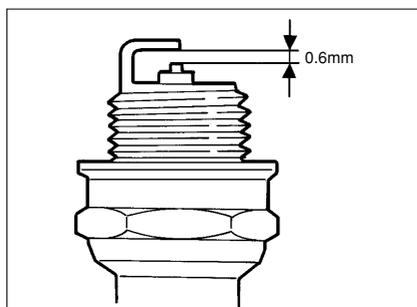
- ② その低下する寸前のところから約 $1/2$ 回転反時計方向にもどしてセットしてください。

- ③ スロットルレバーを急に握ってエンジンが止まったり、回転が落ち込んだりしないで加速することを確認して下さい。
- ④ 加速性が悪い場合は、低速（L）ニードルを反時計方向に少しずつ回して、アイドリング回転速度を、アジャストスクリューで $2300\sim 2600\text{min}^{-1}\{\text{rpm}\}$ にセットし、加速性の確認をして下さい。
- ⑤ これを加速性の良くなる所まで行なって下さい。

### 7-3 スパークプラグの点検

エンジンの始動性が悪くなったり、アイドリングが不安定になった場合はまずスパークプラグを点検して下さい。

- ① プラグをはずして下さい。5-3「始動困難なとき」の項を参照して下さい。
- ② ワイヤブラシで汚れを落として下さい。  
必要なら電極間すきまを調整して下さい。  
適正すきまは0.6mm（官製はがき3枚分）です。



### 〈注記〉

約100時間運転後、または電極の腐食がひどい場合は交換してください。  
スパークプラグは純正品（チャンピオン C J 6 Y）をご使用ください。

## 7-4 シリンダーフィンの清掃

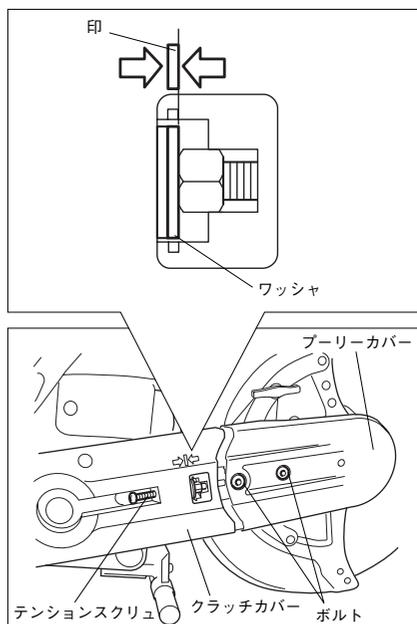
- シリンダーフィンの間を清掃してください。シリンダーフィンの中にゴミが  
つまっていると、オーバーヒートや火災の原因となります。
- つまりが多いときはシリンダーカバーをはずして清掃してください。

## 7-5 ベルトの点検

ベルトは長く使っている間に、張りがゆるんだり、摩耗したりします。プーリー  
カバーのボルトを緩めて張りの調整をしてください。クラッチカバーとプーリー  
カバーを外してベルトを点検し、摩耗が激しい場合（はがれ、めくれ、傷、ひび  
割れなど）は、新品と交換してください。

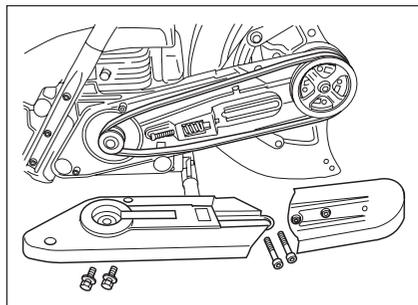
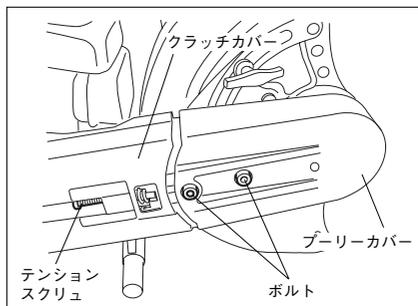
## 7-6 ベルトの張りの調整

- ① プーリーカバーのボルト2本を約1  
回転緩めてください。
- ② テンションスクリュを回して、クラ  
ッチカバーの印にワッシャを合わせ  
てください。
- ③ プーリーカバーのボルト2本を締め  
付けてください。



## 7-7 ベルトの交換

- ① テンションスクリュを緩めてください。  
ボルト2本を外してください。
- ② プーリーカバー、クラッチカバーを取り外し、ベルトを外してください。
- ③ 新しいベルトを組み付けクラッチカバーを取り付けてください。
- ④ プーリーカバーとボルト2本を取り付けベルトの張りを調整してください。(7-6項参照)



## 7-8 といしの点検

切断性能はといしの状態によって大きく左右されます。常に適正な状態を保つようにしてください。

外観を良く点検し、ひび、ひずみ、かけのある物は、使用しないで新品に交換してください。また異常摩耗したといしも新品に交換してください。



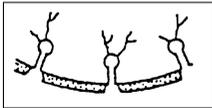
ひび、ひずみ、かけのあるといしを使用すると、といしが破損しますので使用しないでください。

## 7-9 ダイヤモンドブレード（別売品）の点検

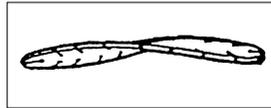
切断性能は刃物の状態によって大きく左右されます。切れ味が低下した時は、目立てを行ってください。切れ味の悪い状態での作業は疲労を増し、切断効率を著しく低下させます。常に適正な状態を保つようにしてください。

### ⚠ 危険

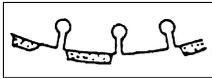
基盤割れ、チップかけ、基盤のひずみ、チップ異常摩耗等のあるブレードを使用するとブレードが破損する事がありますので使用しないでください。



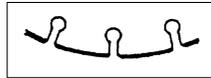
（基盤割れ）



（基盤のひずみ）



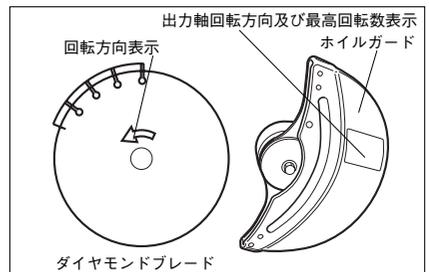
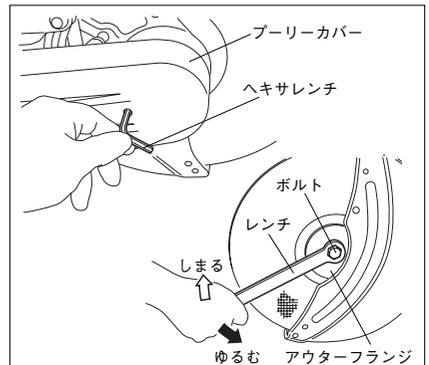
（チップかけ）



（チップ摩耗）

## 7-10 刃物の交換

- ① プーリーカバーの穴にヘキサレンチを入れて、ボルトをレンチで回してください。
- ② ボルト、アウターフランジ、刃物の順に外してください。
- ③ 新しい刃物を取り付けてください。  
刃物はドライブシャフトのカラーにセットするようになっています。刃物の穴にカラーが確実にセットされていることを確認し、アウターフランジを取り付けボルトを締め付けてください。



## ⚠ 危険

刃物は、表示されている最高使用回転速度が、本機に表示してある最高回転速度（MAX min<sup>-1</sup>{rpm}）より高いものを使用してください。

## ⚠ 注意

- ダイヤモンドブレードは回転方向に注意してください。（ブレードの表示が上図の通りになるようにしてください。）
- フランジのあたり面にゴミが付いていたら、きれいに取り除いてください。
- 刃物は、新ダイワ純正品を使用してください。

### 7-11 ダイヤモンドブレードの目立て

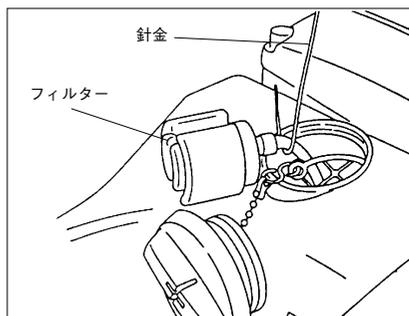
刃物をスロー回転（クラッチイン回転数、エンジン回転数約3800min<sup>-1</sup>{rpm}位）に落とし、コンクリートブロックまたは柔らかいレンガを10回程度切断し、ダイヤモンドの目が出たのを確認してください。尚、ブロックは水をかけて切断する方が効果が上がります。

### 7-12 燃料フィルターの点検

## ⚠ 危険

ガソリンはたいへん引火しやすいので、火気に注意してください。

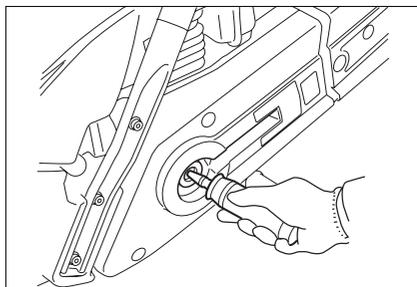
- ① 燃料キャップを外してください。
- ② 給油口から針金などで先端のフィルターを引き出して、フィルターが汚れていたらフィルターを交換してください。



- ③ 交換後、ゴムパイプが折れないようにして燃料フィルターを給油口から、燃料タンク内に戻してください。  
このとき、燃料フィルターが燃料タンクの底に着いていることを確認してください。
- ④ 燃料キャップを取り付けてください。

## 7-13 クラッチ部ベアリングへのグリス注入

クラッチドラムとクランクシャフトの間のベアリングへ20時間毎にグリスをクランクシャフトの端面の穴から適量（図のグリスガンで3回押し程度）注入してください。



## 7-14 防振ゴム類の点検

- 防振ゴム類は製品のご使用前後に摩耗、亀裂、変形がないか点検してください。異常がある場合、または通常より振動が増えたと感じた場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- としいやダイヤモンドブレードの点検や目立て具合により振動が増えることがあります。  
「としいの点検」「ダイヤモンドブレード（別売品）の点検」「ダイヤモンドブレードの目立て」の項を参照して整備を行ってください。

## 7-15 その他

- 点検の結果、修理や部品交換が必要な場合は、お求めの販売店にご相談ください。  
独自の修理は故障や重大な事故の原因となります。
- 交換する部品は弊社純正部品を使用してください。
- 定期的にお求めの販売店で点検を受けてください。

## 8. 長期保管

### 危険

- 保管の際は、燃料漏れ、破損、事故等を防止するために本機が転倒しないような安定した場所に置き、刃物を取り外して下さい。
- 年少者（子供）の手の届かない乾燥した場所に保管して下さい。

2ヶ月以上使用しないときは、次の整備を行って保管してください。

- ① 外観を十分に清掃してください。
- ② 点検・整備の項を参考にして点検・整備を行ってください。
- ③ 燃料タンクの燃料を排出しながら、スロットルアジャストスクリュー下のプライマポンプを押しキャブレター及びポンプ内の燃料を排出してください。
- ④ エンジンを始動し、エンジンが停止するまで低速で運転してキャブレターの中の燃料を空にしてください。

#### 〈注記〉

燃料を2ヶ月以上入れたままにしておくと変質してキャブレターの故障やエンジンが始動しなくなる原因になります。

- ⑤ クリーナーカバー、フィルタ、プラグキャップ、スパークプラグを外し、スパークプラグ穴から少量(1～2cc)のオイルをシリンダー内に流し込み、オイルがゆきわたるように2～3回コイルスターターを引いてください。
- ⑥ クリーナーカバー、フィルタ、プラグキャップ、スパークプラグを元通りに取り付けてください。
- ⑦ 刃物を取り外して下さい。
- ⑧ 屋内の乾燥した火気のない場所に保管してください。

## 9. 修理を依頼する前に

エンジンが始動しない

燃料タンクに新しい混合ガソリンが入っていますか？

スパークプラグが濡れていますか？

濡れている

濡れていない

- ① スパークプラグを乾かしてください。
- ② スパークプラグの点検を行ってください。(7-3参照)
- ③ リコイルスターターをいきおい良く引いてシリンダー内の燃料を排出してください。(5-3参照)

燃料フィルターの交換

これらの点検・整備を行っても症状が改善されない場合は、弊社営業所にお問い合わせください。

切れ味が悪い

チョークを完全に戻していますか？

エアクリーナーが汚れていませんか？

といしの目は、つぶれていませんか？ダイヤモンドブレードの目立ては十分行われていますか？

ベルトの張り調整は適正ですか？

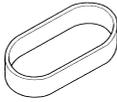
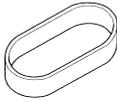
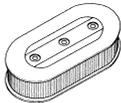
キャブレターの調整は適正ですか？

# 10. 主な消耗品

純正刃物一覧表

タイプ/用途		サイズ mm 外径×穴径 (厚さ)	適用機種		品番	
			EC7500S	EC7600S		
レジン ノイド 切断といし	非金属用 (ブルー)	φ 305×22 (4)	○		22962-98030	
	コンクリート製品 鋳鉄管など	φ 355×22 (4.5)		○	22966-98030	
	金属用 (レッド)	φ 305×22 (4)	○		22962-98070	
	鋼材など	φ 355×22 (4.5)		○	22966-98070	
ダイヤモンド ブレード	コンクリート用 (ピンク)	スタンダード	φ 320×22	○	22964-98011	
			φ 360×22		○	22966-98090
		エコノミー	φ 320×22	○		22964-98050
			φ 360×22		○	22966-98140
	鋳鉄管用 (オレンジ)	スタンダード	φ 320×22	○		22964-98040
			φ 360×22		○	22966-98130
		エコノミー	φ 320×22	○		22964-98060
			φ 360×22		○	22966-98150

消耗部品

品名		適用機種		品番
		EC7500S	EC7600S	
プリフィルター (乾式)		○	○	38010-82311
プリフィルター (湿式) 専用特殊オイル含浸品 (赤色)		○	○	38010-98090
フィルター		○	○	38010-82581
スパークプラグ	 チャンピオン CJ6Y	○	○	13000-03206
ドライブベルト	 6PJ-808	○	○	38010-64130

# 1 1. 振動障害の予防

2009年に厚生労働省から振動障害予防対策として、日振動ばく露量を抑制する指針が出されました。指針の内容を理解のうえ、日振動ばく露量の低減に努めてください。

- ・ 指針詳細は安全衛生情報センターのホームページ (<http://www.jaish.gr.jp/>) の通達一覧から参照ください。
- ・ チェンソー以外の振動工具の取扱い業務に係る振動障害予防対策指針について平成21年7月10日 基発0710第2号 (<http://www.jaish.gr.jp/anzen/hor/hombun/hor1-50/hor1-50-27-1-0.htm>) を参照ください。

## 11-1 日振動ばく露量 A(8)

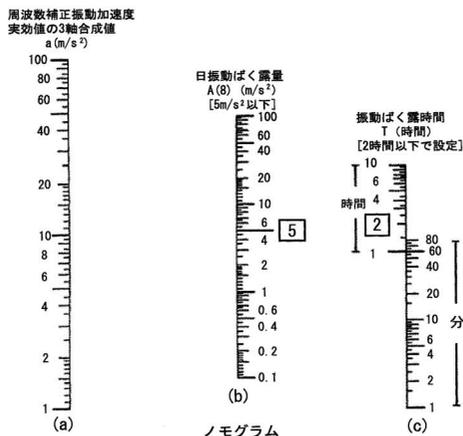
- 「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」と1日当たりの振動ばく露時間から、次式により日振動ばく露量 A(8)を求めてください。
  - ・ 日振動ばく露量A(8)は5 m/s<sup>2</sup>以下となるように振動ばく露時間(作業時間)Tを設定してください。
  - ・ 1日当たりの振動ばく露時間(作業時間)Tは2時間以下で設定してください。

$$\text{日振動ばく露量： } A(8) = a \times \sqrt{\frac{T}{8}} \quad [\text{m/s}^2]$$

(注) a[m/s<sup>2</sup>]：周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値（本体表示ラベル又は、10ページの「仕様」参照）

T[時間]：1日の振動ばく露時間

- 日振動ばく露量A(8)は、下記のノモグラムからも求めることができます。このノモグラムの使用法は、(a)に「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」をプロットし、(c)に「振動ばく露時間」をプロットし、その2つの点を結ぶことにより(b)の「日振動ばく露量A(8)」を求めることができます。



## 11-2 1日に複数の振動工具を使用する場合

- 1日に複数の振動工具を使用する時は、下表を利用して個別作業ごとの「振動ばく露量： $A_i(8)$ 」を求め、最終的な「日振動ばく露量： $A(8)$ 」を計算します。  
その振動ばく露時間が「日振動ばく露限界値 ( $A(8) : 5.0\text{m/s}^2$ )」及び「日振動ばく露対策値 ( $A(8) : 2.5\text{m/s}^2$ )」を越えるかが判断出来ます。
- ・ 1日当たりの振動ばく露時間（作業時間）：T は合計で2時間以内で設定してください。
- ・ 日振動ばく露量  $A(8)$ は：  $5\text{m/s}^2$ 以下となるように、各振動工具の振動ばく露時間（作業時間）T を設定してください。

	個別の作業番号 (i)						合計
	1	2	3	4	5	6	
3軸合成値 $a_i (\text{m/s}^2)$							
振動ばく露時間 $T_i$ (時間)							
$A_i(8) = a_i \times \sqrt{\frac{T_i}{8}}$							$\sum A_i(8)^2$
$A(8)^2$							$A(8) = \sqrt{\sum A_i(8)^2}$

2時間以内  
日振動ばく露量  $A(8)$   
( $\text{m/s}^2$ )  
 $5\text{m/s}^2$ 以下

1. ノモグラム（33ページの「日振動ばく露量 $A(8)$ 」に記載）に、個別作業の周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値を(a)、振動ばく露時間を(c)にプロットし、2つの点を結んで個別の振動ばく露量(b)  $A_i(8)$ を読み取り、上記の表に記入します。個々の作業がいくつもある場合は同様の操作を繰り返し、 $A_i(8)$ を求め上記表に記載します。
2. 個々の作業の  $A_i(8)$ の2乗を計算し、全ての作業別の値の合計を求め上記表に記載します。
3. 2. で求めた値の平方根を求め表に記載します。この値が「日振動ばく露量  $A(8)$ 」になります。

※上テーブルは、(<http://www.jaish.gr.jp/information/mhlw/nichishindo-bakuroryo.xls>) を使用して求めることが出来ます。

# 株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2    Tel 0428-32-6181

## やまびこ産業機械株式会社

〒 731-3167 広島市安佐南区大塚西6-2-11    Tel 082-849-2005 (代)

## やまびこ北海道株式会社

〒 004-0041 北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20    Tel 011-891-2249 (代)

## やまびこ東北株式会社

〒 984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50    Tel 022-288-0511 (代)

## やまびこ東部株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2    Tel 0428-32-1091 (代)

## やまびこ中部株式会社

〒 452-0031 愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39    Tel 052-502-4111 (代)

## やまびこ西部株式会社

〒 701-0221 岡山県岡山市南区藤田566-159    Tel 086-296-5911 (代)

## やまびこ九州株式会社

〒 816-0943 福岡県大野城市白木原 5-3-7    Tel 092-573-5361 (代)

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-015 87 3  
X750 395-030 3

(C) 2012 株式会社やまびこ 著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。